



保育参観、マラソン大会、おわかれパーティーなど、三学期も子供たちの成長した姿を見ていただく機会が多かったですね。おかげ様で今年度も無事終わろうとしております。

さて、子育てと保育、どちらも子供を育てる大切な仕事ですが、その結果はすぐ目に見えるものではありません。数え切れないほどのくり返しの中で、数ヵ月後、数年後に振り返ったとき、初めて見えてくるものなのだと思います。

年度当初、4月の子供の姿と比べ、今の子供たちを見ると一人ひとりが着実に成長しました。泣いてお母さんから離れられなかった子、お友達とけんかばかりしていた子、自分の気持ちをはっきり言えず困っていた子・・・いろいろな子がいましたが、一年間でその子なりの歩みで成長をしてくれました。先生がたが長い目で子供の成長をとらえ、じっくりと一人ひとりの成長に向き合ってくれた成果なのだと思います。すぐに結果を求めるのではなく、ただ目の前の子供が必要とするものを与え続ける。保育の現場だからこそできることなのかもしれません。

不安な気持ちで先生の手を握りしめる子、気持ちが落ち着くまで先生の背中から離れない子、毎日当たり前のように繰り返される光景ですが、それらの経験が子供の心の中に残っていくのは確かなようです。

小学生や中学生の作文に将来の夢が描かれることがあります。幼稚園でのこうした経験を思い出し、幼稚園の先生になりたいと書いてくれた作文を見ることがあります。しっかりとした文章に成長を感じながら、幼稚園で毎日繰り返される園児と先生の心の触れ合いが何年たっても子ども達の心に残っていることに、こちらの心も温かくなります。

家庭においては、こうした触れ合いの記憶はさらに強く残ると思います。私自身、幼い頃の母の背中や手のひらの温もりの記憶が、まざまざとよみがえることがあります。

子育てをしていると平穏な日ばかりでなく、時には厳しく子供を叱りすぎて反省する日もあることでしょう。でも、日々の何気ない会話や親の気づかい、温かいまなざしは、子どもの心の根っこに温かい栄養を与えてくれます。

はっきりとした言葉や形にはならなくても、子どもと過ごす毎日こそが子どもの心をはぐくみ、強く生きる力の源となるのです。

これから成長の過程で、自我の芽生えとともに親への反抗、衝突などいろいろなことがあるかと思いますが。そうした時に、揺らいでいる子供の心をつないでくれるのは、やはり、親やまわりの家族の愛情なのです。

4月からは新しいスタートとなりますが、また一年間新たな成長を見守り、ご家庭と園とで子供たちの成長をともに喜び合いたいと思います。そして卒園されるお友だちにも、少し離れた場所からエールを送り、これからも見守り続けたいと思っています。

やがて子供たちが成長したとき、一緒に過ごしたお友達や先生の存在が、ささやかな温もりとして残っていますように・・・